

会報

11

2024.6



大阪公立大学工学部都市会

自己紹介のようなもの

矢野 幸子
(昭和 63 年卒)
(都市会副会長)



1988 年（昭和 63 年）卒業、土質研究室で圧密試験に関する研究をしました。学業においては 2 度の留年危機を乗り越えた後に卒業危機を迎え、結局 5 月に卒業というひどさを誇っております。

当時の工学部は同級生約 200 人のうち 5 人しか女子学生がいないという状況で、女子学生は珍獣的存在だったかと思いますが、珍重はされなかったです。

都市学科（当時は土木工学科）古参の女子卒業生ということで都市会の中の女性の会の会長をしております。その絡み(?)で都市会の副会長を拝命しております。

成り行きで橋梁関係の建設コンサルタントに就職し、転職はしたものの未だに建設コンサルタントで橋梁関係の設計をし続けております。初めころは自分が設計した橋が現実に出来上がることがうれしいなあというのを原動力にしてワクワクしながら仕事をしていました。兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）で倒れた橋・落ちた橋・ぎりぎり持ちこたえている橋などを見て、私の設計した橋はこの先大丈夫なのだろうかと不安を覚えて、私の仕事は責任重大だと重苦しいものを感じたものです。とはいえ、今も私の原動力は自分をワクワクさせてくれる何かであることには変わりありません。

誕生日会

人生半世紀越えともなると、わざわざ誕生日会をする機会がなくホールケーキを食べることなど全くないため、誕生日が近い友人 3 人で誕生日会を開催しました。久々にホールケーキを選ぶだけで心が弾みました。まったくもって誕生日ケーキらしくないケーキ（写真）になったのは見た目のインパクトを重視した結果です。ただ、サイズが私たちの胃に対して大きかったので一人 3 分の 1 というわけにはい



かず、一番若い友人が頑張ってくれました。ケーキをいただいた後はプレゼント交換などもなく、ただの昼飲み会となったのは大人の誕生日会の仕様だと思われ

古い構造物

歴女の友人に連れられて寺や神社へ行くことがあるのですが、古い木造建築物や仏像は古くてぼろい・・とはならず「渋い」とか「趣がある」など良い形容詞がつくことが多いような気がします。では土木の構造物はどうでしょうか。

鉄筋コンクリート橋は 1903 年建造の長崎市本河内低部(水道)堰堤放水路橋（写真は「みさき道人“長崎・佐賀・天草 etc.風来紀行”」



<https://misakimichi.com/archives/1192> より)ものが日本最古とされています。写真を見ると細かい装飾がされていてなかなかいい感じだとは思いますが・・・業界外の友人に見てもらったところ「ボロボロやん、白いのがなんかついてるけど汚れてるん？」との感想をいただきました。

近年は維持管理の重要性が認識されて、数年に一度の定期点検とそれを踏まえた補修・補強などの対策が取られています。そのおかげで、構造物における一定の耐荷性能・耐久性能・使用性能等は保たれていることになっています。しかし、性能さえ問題なければ見た目は少々悪くても、となってしまうかねません。たまにひび割れを補修した後がくっきりひび割れに見えるような形になっていて、補修してあるにもかかわらずひび割れているみたいに見える構造物があったりしますが、あれ何とかありませんかね？陶器の補修技術である「金継ぎ」のように芸術的なひび割れ補修なんでものは、お金かかりそうですね。

出来立てのコンクリート構造物・鋼構造物はきれいですが、年月を経た構造物についてもそれなりの味があると感じられるのは私が構造物を作る側の技術者だからかもしれません。

近頃はダム・高速道路のジャンクションなどを愛でる趣味の方もいらっしゃるようですが、そういう特殊(?)な構造物だけでなく身近なインフラ構造物も愛でてもらえるようになるといいと思っていますし、年月を経ても味わい深いと愛される構造物が増えたらいいなあと思います。もちろん、そんな構造物を自分で作ってみたいとは思いますが、私にはそんな能力はありませんので、同窓の皆様どうか頑張ってください。

さいごにちょっと同窓会のこと

これを読んでいる会員の皆様、同窓会の活動にご興味はおありでしょうか?それとも「同窓会?関係ない

よ、仲のいい同窓の友人とは SNS でつながってるから」って感じでしょうか。ごもっともですが。ちょっとお待ちください。現在都市会の会員数は約 3000 名です。3000 人があなたの関係者だというのはとても素晴らしいことだと思いますか。例えば旅行先でたまたま話をした人が同窓や同郷だったら、ちょっと幸せな気分になりませんか。同窓生ってそんな程度の幸せにつながる関係です(お仕事関係とかでもいろいろありますがここでは割愛)。非常に細くて薄い関係かもしれませんが、同窓会はその関係を少しだけ深めるために存在していると私は考えています。この会報や様々なイベントで皆様のつながりを深めるきっかけができれば副会長として幸せでございます。今後とも都市会をよろしく願いいたします。

皆様がつつがなく良き日々をお過ごしいただけますようお願いしております。

ローチが必要とされると確信するところです。

卒業生・修了生の進路の概要

今年の3月には都市学科10期生44名が卒業し、また大阪公立大学大学院前期博士課程としては第1期生となる都市学分野の44名が修了しました。

2023年度学部卒業生44名の進路は、33名(75%)が大学院前期博士課程に進学し、残りの11名が社会人となりました。就職先は、公務員が5名(奈良県、大阪市2、名古屋市、堺市)、民間会社が6名(ゼネコン2、建設コンサル1、住宅・不動産2、その他1)です。同じく2023年度大学院前期博士課程修了生41名の就職先は、公務員が4名(近畿地方整備局1、東京都1、大阪府1、大阪市1)、民間企業35名(ゼネコン2、建設コンサル12、インフラ系7、メーカー7、住宅・不動産5、その他2)でした。今年は、大学院修了生のコンサルタント系への就職が多く、ゼネコンへ進む学生が少ない印象です。最近の学生はワークライフバランスを重視していると言われますが、これもその現れかもしれません。今年働き始めた学生達は、学生から社会人へと意識を変革する時期にあると思います。都市会会員の皆様には、仕事には厳しくとも、後輩として温かな目で見守り、サポートいただければ幸いです。

博士(工学)の授与者

大学院の後期博士課程(都市学分野)では、2023年

都市学科の近況

2024(令和6)年度学科長
西岡 真稔



はじめに

都市会会員の皆様には、平素から学科への種々のご支援を頂き、厚くお礼を申し上げます。

2024年は元日に起きた能登半島地震に始まりました。4月には台湾地震が発生し、人間の生活、とくに地震大国と言われる日本では、地震と隣り合って生きていくしかないことを痛感させられました。能登半島は過疎地域であるために財政基盤が脆弱で地震対策・防災対策が進んでいなかったことが被害を甚大化させたと言われますが、程度の差こそあれ、大都市大阪でも同種の問題を抱えています。つまり防災対策は工学技術の視点だけではなく、社会や経済など多様な視点から取り組まなければ解決できない種類の問題であるということです。

深く鋭く課題を追求する一般的な工学に対して、広く多様に課題解決に挑む姿勢は都市学科の特長であり、前述のような問題解決に対して、まさに都市学的アプ

度は次の 2 名の方が博士（工学）の学位を授与されました。

- 令和 5 年 9 月、SHEN QIHANG 氏（主査：山口 隆司教授）「ボルト類締結材を用いた鋼橋部材の当て板補修・補強工法に関する研究」
- 令和 6 年 3 月、佐倉 亮 氏（主査：山口 隆司教授）「曲げとせん断を受ける高力ボルト摩擦接合連結部のすべり・支圧強度に関する研究」

学生の活動・受賞など

2023 年 4 月～2024 年 3 月に前期博士課程・後期博士課程の学生を主とする活動・受賞を紹介します。研究発表の他、研究交流会など多方面へ積極的に活動し、個人やチームとして成果を高く評価されています。（括弧内は受賞当時の学年）。

- Asian-Pacific Planning Societies 2023 国際会議において Best Presentation Award 受賞、遠藤真仁さん（M1）
- 第 3 回エリアマネジメント研究交流会 研究発表部門アワード受賞、神田佳祐（M1）さん（研究題目「メインストリートに接する横道における歩行者行動に関する研究 -大阪難波地区を対象として」）
- 第 33 回環境化学技術賞 池田歩夢さん（M2）：（研究題目「南海トラフ巨大地震にともなう化学物質漏洩リスクの推計」）
- 構造工学論文集 Vol.69A 論文賞および優秀講演賞受賞、発表者 佐倉亮さん（D3）、共著者 平岡葵さん（修了生）、福辻菜絵さん（修了生）、堀井いずみさん（修了生）、佐倉亮さん（D3）、頼健鵬さん（D1）
- JSBC2023（室蘭工業大学）特別賞受賞、赤星花奈さん（M1）、石黒陽菜さん（M1）、木山大聖君（M1）、安田航輔さん（M1）、土生川季永さん（B4）
- 令和 5 年度土木学会全国大会第 78 回年次学術講演会優秀発表賞受賞、池田未来さん（M2）、赤星花奈さん（M1）
- 大阪公立大学大学院工学研究科 国際シンポジウム Excellent Poster Award 受賞、頼健鵬さん（D1）
- 2023 年度 関西土木工学交流発表会 優秀発表賞 受賞、石黒陽菜さん（M1）、木山大聖さん（M1）、インプレッションポスター賞 赤星花奈さん（M1）
- 第 15 回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム優秀発表賞受賞、関本将貴さん（M2）
- 2023 年度日本鋼構造協会論文賞受賞、浅野貴弘さん（D2）、浅野文佳さん（修了生）、石田健人さん（修了生）、（論文題目「薄層モルタルとスタッド間隔がプレキャスト床版を適用した合成桁の鋼桁-床版間の合成

作用に与える影響に関する実験的研究）」

- 大阪公立大学学長表彰受賞（研究活動実績等において顕著な功績を収めた学生への表彰）、池田未来さん（M2）、関本将貴さん（M2）

教員の異動・活動

2023 年度末の教員の退職、および 2024 年度 4 月の新規着任はありません。

学内の役職の動きとしては、市立大が公立大への激動の時期に、工学部のリーダーとして尽力された貫上佳則教授が副研究科長・副学部長を退任されました。今年度から新たに、山口隆司教授が副研究科長・副学部長に就任されます。また、重松孝昌教授は副学長職を継続され、今年度からは社会連携戦略・都市シンクタンク戦略担当を担われます。また学外では、土木学会関西支部の副支部長（2023 年 5 月～2024 年 5 月）として活躍された内田教授が退任されました。山口隆司教授が土木学会鋼構造委員会委員長に就任されました。

教員の受賞として、高木悠里講師が日本都市計画学会学会賞・論文奨励賞（持続可能な景観マネジメントに関する研究）の受賞があります。さらに、吉田長裕准教授は、自転車利用環境向上会議において会長賞を受賞されました。

おわりに

2024 年度は大阪公立大学の開学から 3 年目を迎え、市立大から公立大への移行が進んでいます。昨年度末をもって、杉本キャンパスに居た機械工学科、電子・物理工学科、電子情報工学科の 3 学科の教員・学生は中百舌鳥キャンパスへ移転し終えました。現在は、都市工学科、建築学科、科学バイオ工学科の 3 学科のみが杉本キャンパスに残っており、2027 年度予定の中百舌鳥キャンパスへの移転を待っている状況です。公立大としての都市学科 1 期生は 3 学年まで学年が進み、授業カリキュラムも、市大時のカリキュラムは 4 年次提供の一部科目を残すのみです。

大阪公立大学への移行完了が近づく中、工学部には旧府大・旧市大の古い組織形態も残っており、工学部再編を模索する動きがあります。その中で、都市学科は改めて学科の存在意義や将来へ果たすべき役割を問われています。本学科がこれまで培ってきた教育・研究の基盤の上に、これからの時代に求められる都市学科像を描くべく、教員一丸となって取り組む所存ですので、都市会の皆さまからも厚いご支援を頂きますと幸いに存じます。

都市学科近況報告

安全防災領域

構造およびコンクリート工学分野

2023年度よりコンクリート工学研究室として独立し、1年が経ちました。2023年の構成は前期博士課程2名（M2:1名、M1:1名）、4回生2名の計4名という、研究室としては小人数のメンバーで活動してきましたが、M2の学生はJR西日本、B4の1名は大林組へと巣立ってゆきました。2024年度は前期博士課程2名（M2:1名、M1:1名）、4回生3名の計5名と1名増加しましたが、相変わらずの小人数体制です。なお、現在の4回生の世代が大阪市立大学としての最後の世代になります。

さて、2023年度の研究活動としては、コンクリートの中性化に対する非破壊検査手法を模索するため、近赤外線分光法に着目して検討を行ってみたい、企業との共同研究として低炭素型の繊維補強コンクリートの特性を検討するなど、複合構造やコンクリートの補修・補強、維持管理を中心に実施しております。ただし、なかなかうまく結果が出なかったり、企業との共同研究などでは論文投稿がしづらい場合もあり、精力的な学会での発表がなかなか出来ていない状態で、卒業生へのアピールが不足している点をご容赦下さい。

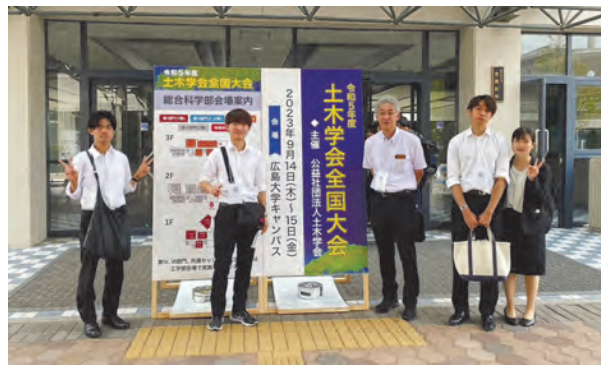
研究室としては、2020-2022年の3年実施できていなかったゼミ旅行を何とか実施しようと思い日程調整に苦心した結果、広島での全国大会への参加を兼ねて実施するという苦肉の策で対応しました。2024年度は被災状況の視察と復興支援を兼ねて石川県に行こうかと考えている次第です。

見学は3回実施し、1つは卒業生の植村さんにご尽力いただき、NEXCO西日本さんの茨木技術研修センターに伺わせていただきました。私自身は何年も前の設立当初に伺わせていただきましたが、展示内容も増え、見ごたえがあり、更なる勉強をさせていただきました。特に、2018年の台風21号によりタンカーが衝突した関西連絡橋の被災桁や熊本地震による被災桁などの展示が印象的でした。また、受託研究の関係で供試体作成の立ち合いを兼ねて大林組の技術研究所を見学させていただきました。振動台での地震体験から、コンクリートの3Dプリンターおよびその建設物など

様々な説明を頂き、勉強させていただきました。

もう1つは、都市会主催の「淀屋橋東プロジェクト見学会」に便乗させていただき、見学をさせていただきました。普段はインフラ構造の現場見学を主体的に見学しており、近年は補修・補強工事を見学させていただくことが多かったのですが、建築物の見学は研究室としては希少な機会であり、研究対象であるRC構造からCFT構造や耐震構造などが見学出来、大変有意義なものでした。都市会主催の見学会に学生が参加することも無いようで、逆にありがたわれましたが、こちらとしては貴重な機会を提供していただき感謝いたします。ただし、1月開催ではなく、遅くとも12月までに開催していただけないかと要望はさせていただきました。1月は研究で学生が忙しいので。今年は、万博関連の工事なども多く見学できそうなので、見学会は増やして行ければと思っております。万博関連以外も含め卒業生の皆様には面白そうなまたは、学生には見てもらいたいなどと思われるような情報がありましたらご連絡いただけますと幸いです。

まだまだ、私の力不足もあり、精力的な活動が出来ておりませんが、学生の力も借りながら、研究室が発展できるように頑張りたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。



土木学会全国大会 in 広島大学にて

応用構造工学分野

応用構造工学研究室／橋梁工学研究室は、2024年5月現在、教員3名（鬼頭教授、山口教授、林助教）、特任教授1名、客員教授1名、秘書1名、研究員1名、博士課程13名（うち、社会人9名）、修士課程7名、

学部生 5 名の 32 名で勉学・研究活動に取り組んでいます。

社会インフラ構造物のうち、特に鋼橋・合成構造を対象に研究・教育活動を行っています。現在では、大阪市建設局橋梁課と橋梁技術に関する情報交換・技術支援に取り組む『大阪市橋梁技術交流会』や、阪神高速先進技術研究所と有限要素解析に関する意見交換・技術交流を行う『FEM 解析に関する意見交換会』といった社会貢献活動も行っております。また、実務経験豊富な社会人ドクターの方々が多数、所属しており、実務と研究の両面から実現象の問題解決に取り組む体制が整っております。

教育面では、国内外のシンポジウム・会議において、これまでの研究成果を発表するため、昨年度は、『IALCCE2023』（イタリア）や、『EUROSTRUCT 2023』（オーストリア、写真 1）、『IABSE Symposium Manchester 2024』（英国）へ学生を派遣し、現地にて



写真 1 国際学会発表会
EUROSTRUCT 2023@
University of Natural
Resources and Life-Sci-
ences にて、2024 年 9 月

また、本研究室が主催となり 2023 年 8 月に『第 13 回独
日橋梁シンポジウム』を開
催しました。科学技術振興
機構 (JST) のさくらサイエ
ンスプログラムに採択さ
れ、スロバキア工科大学の教員・学生を受け入れ、橋
梁工学の研究・実務に関わる情報共有を行う『日本・
スロバキア技術交流会』（写真 2）を実施して、海外の
研究者や学生とも積極的に交流を深めました。さらに、
全国の鋼構造系教員からなる JSBC 実行委員会主催の
『Japan Steel Bridge Competition 2023@室蘭工業
大学』（写真 3）、本四本州四国連絡高速道路株式会
社が主催の『橋梁模型コンテス@橋の科学館（明石市）』
に学生が参加して、模型橋梁の美観性、架設性、構造
性能を他大学の学生と競い合い、交流を深める活動
をしています。土木構造物の現場・現地見学を目的と
した学内公認サークル『ぶら土木』の活動では、明石
海峡大橋（写真 4）、阪神高速道路喜連瓜破工区現場、
大阪市舞洲東交差点などの現場見学を行い、研究室の
学生のみならず、学部生も対象として橋梁構造物に触
れ合う機会を提供しています。



写真 2 日本・スロバキア技術交流会
(橋の科学館にて、2024 年 1 月)



写真 3
Japan Steel Bridge Competition
2023
(室蘭工業大学にて、2023 年 9 月)



写真 4
ぶら土木
明石海峡大橋
(2023 年 5 月)

研究面では、橋梁の維持管理・大規模更新や道路橋示方書の改訂などの社会情勢の変化を踏まえ、接合部材の現場取替え工法の検討、合成桁の床版取替え工法および接合構造の提案、鋼床版の下面補強工法、接合部および当て板補修部材の耐荷力評価、橋梁ヘルスマニタリングに力を入れています。また、皿型高力ボルトや双皿型ボルトセット、片面施工ボルトなどの新型ファスナーや、軽量・高耐食性に優れた新型鋼床版の開発の検討にも取り組んでおり、橋梁の長寿命化や現場施工の効率化の検討を行っています。これらの一連の教育研究活動に対して、JSBC2023 では特別賞、第 78 回土木学会年次学術講演会では、M2 の池田未来さん、M1 の赤星花奈さんが優秀発表賞、2023 年度 関西土木工学交流発表会 (旧: 土木学会関西支部) では、M1 の石黒陽菜さん、木山大聖君が優秀発表賞、赤星花奈さんがインプレッシブポスター賞、第 15 回複合・合成構造の活用に関するシンポジウムでは、M2 の関本将貴君が優秀発表賞を受賞しています。さらに、社会人 D3 の浅野貴弘さん、修了生の浅野文佳さん、石田健人君、山口教授の論文が 2023 年度日本鋼構造協会論文賞、D3 の佐倉亮君が 2 年連続となる構造工学論文集 Vol.69 論文賞を受賞しました。具体的な研究テーマは、研究室 HP (<https://www.omu.ac.jp/eng/bridge/>) の研究ポスターの項をご覧ください。

研究室の近況は、
Facebook (<https://www.facebook.com/omukyoryoken/>)
Instagram (https://www.instagram.com/omu_bridge/?hl=ja)
にて、随時配信しております。そちらもご覧頂けると
幸いです。

地盤工学分野

2023年度から岡田助教が着任され、地盤工学分野は山田卓准教授と岡田広久助教の2名の新体制でスタートしました。また、2022年度にご退官された大島昭彦名誉教授（都市科学・防災センター 特任教授）とも、引き続き連携して研究を進めています。

研究内容として、生分解性プラスチックを用いた混合処理土による地盤材料の適用性の検討、大阪・関西万博会場となる夢洲の浚渫粘土、洪積・沖積粘土地盤の圧密沈下予測の解析、遠心模型実験装置を使った豪雨による斜面災害の研究、粘土地盤の地表に敷設したPBDによる圧密促進効果の研究などが最近注力している研究です。

2023年度は、学生8名が所属していましたが、前期博士課程の2名は社会人となり、学部4回生の3人は全員、大阪公立大学大学院へ進学し、引き続き当研究室で研究活動を行うことになりました。

2024年度は、修士2回生が3名、修士1回生が3名、4回生が2名、3回生が1名の合計9名の体制でスタートします。

2023年度は、7月には福岡で地盤工学研究発表会、9月には広島で土木学会全国大会、11月には Kansai Geo-Symposium が行われ、それぞれで研究成果の発表を行いました。

また、教育内容を簡単に紹介しますと、学部では専門科目として、2年次に土質力学Ⅰを、3年次に土質力学Ⅱ、地盤基礎工学、都市学実験（土質実験）を科目提供しています。また、大島昭彦名誉教授による土質力学Ⅰ・Ⅱの教科書が出版されました。土質力学Ⅰでは、土の状態量、締固め、透水・浸透、圧密を土質力学Ⅱでは、地盤内応力、せん断、斜面安定など土木技術者にとって必須となる土質力学の基礎とその理論を学生に習得させています。大学院では、地盤工学特論、地盤防災工学特論、地盤工学特別演習1・2を科目提供しています。

卒業生の皆様におかれましては、日々、ご支援いただきありがとうございます。今後も何かとお世話になるかと存じますが、引き続きのご支援くださいますよ

うよろしく願いいたします。また、研究室へお越しいただければと思います。研究室一同、お待ちしております。



2023年度の卒業生 おめでとうございます

河海工学分野

河海工学分野は、重松孝昌教授と中條壮大准教授、研究支援課の小池敏也技術職員の3名で、海や河川に関する環境と防災についての研究・教育を行っています。秘書の杉浦様、麓様にも日々ご支援を頂いています。また3名の客員研究員も所属しています。

2023年度は、20名の学生が所属していました（D1が1名、M2が4名、M1が5名、B4が4名、後期よりB3が6名）。M2の2名、B4の4名が学位を取得し、M2の4名、B4の1名が社会へ旅立ちました。2024年度は、D2が1名、D1が1名、M2が5名、M1が3名、B4が5名、B3が1名（5月現在）の合計16名の体制です。後期博士課程には本研究室出身の梅田尋慈君が、株式会社ハイドロ総合技術研究所を退社し、新たにメンバーに加わりました。

教育活動としては、「コミュニティ防災」「大阪の都市づくり」などの全学提供科目の一端を担い、学部では専門科目として「都市工学のための科学基礎」、「基礎流体力学」、「都市工学のための力学基礎」、「プログラミング演習」、「測量学実習」、「水理学」、「河海工学」を主担提供しています。大学院では「流体環境・水防災工学特論」、「特別演習（河海環境構造工学）」を提供しています。

研究面では(A)基礎研究として波動場の多孔質体通過流れや、角を有する物体周りのはく離流れに関する数値解析手法の構築を行っています。(B)環境問題に関する研究として、内湾環境に適合した波力発電システムに関する研究、生態系ネットワークの構築に資するための沿岸流動モデルの構築なども進めています。

(C)気候変動の影響評価や災害に関する研究として、

南海トラフ地震津波による大阪市域の浸水過程に土砂輸送が及ぼす影響の把握と排水過程に関する研究を行っています。(D) 台風災害に関する研究は多く、台風予報の不確実性に関する研究、経験的台風モデルの精度向上に関する研究、全球確率台風モデルによる将来台風の予測、確率台風降雨モデルの構築など多岐にわたります。(E) 2022 年に話題になった気象津波については現地観測資料と数値モデルの両面からアプローチしており、台風や前線から気象津波の原因となる微小気圧波が発生する過程も明らかにしています。

都市科学・防災研究センター (UReC) でも 2 名の教員は主要メンバーとして教育研究、地域貢献活動に従事しています。重松教授は理事 (New!) / 副学長 /

UReC のセンター所長と重役を幾つも兼務されています。中條准教授は文科省の学術調査官として科研費制度の運営・改善に係る業務にも従事しています。

2023 年度は研究成果を、海洋開発シンポジウム (網走)、海岸工学講演会・APAC (京都で同時開催)、都市防災シンポジウム、台風研究会にて発表しました。

昨年度はコロナ禍が明けてようやく河海水域合同新年会を開催することができました (写真)。卒業生の皆様とのつながりを改めて大切に感じています。今年度は新入生歓迎 BBQ も再開し、ゼミ旅行も企画中です。在学中の日々の活動から縦横の関係を紡いでいくことの貴重さを伝えていきます。皆様もリクルートも含め、是非研究室へお立ち寄りください。



学情センターで開催した河海水域合同新年会の様子

環境創生領域

地域環境計画分野

地域環境計画分野は、都市学科の中で、熱とエネルギー利用に関わる研究・教育を担っており、都市居住における熱的快適環境を創出すること、脱炭素化社会を実現するための効率的なエネルギー利用技術の確立を目指しています。分野を構成している教員は教授・西岡真穂と、教授・鍋島美奈子の 2 名であり、西岡は都市の熱環境に関わる伝熱理論や都市・建築の再生可能エネルギー利用技術を専門とし、また鍋島は都市の微気象と空間解析および建物群の熱融通技術を専門としています。都市のエネルギーシステムが専門である名誉教授・中尾正喜 (都市科学・防災センター特任研究員) とは、引き続き連携して研究を進めています。2024 年度は、後期博士課程 1 名、前期博士課程 11 名、学部 4 回生 8 名の合計 20 名 (男性 19 名、女性 1 名) の学生と、研究生 1 名が研究室に所属しています。①帯水層を用いた空調用季節間蓄熱システムの開

発や②建物群熱融通・熱利用ネットワークの開発の研究を継続的に行っており、また、③蓄熱・蓄電を用いた再エネ (太陽光発電) の都市規模での自家消費向上対策、④クールスポットの環境評価・環境創出技術、⑤都市型農業施設のゼロエネルギー化などの研究も近年に注力しているテーマです。

今回は④クールスポットの研究テーマについて、紹介します。大阪府では、森林環境税を原資として「都市緑化を活用した猛暑対策」補助事業をおこなっており、ここ 5 年で駅前広場やバス停など 100 か所以上のクールスポットが新設されています。鉄道運営会社や自治体が事業者となり、大阪府より建設費の補助を受ける制度で、事業者には完成後の効果検証が義務付けられています。WBGT という熱中症指数 (暑さ指数) を用いて、対策効果を計測し、大阪府に報告します。このデータの解釈について府の担当者から相談を受けたことがきっかけとなり、クールスポット評価の研究を始めることになりました。大阪府内のクールスポットの格

付けができるような汎用性のある評価方法を提案することを目標に、毎年盛夏の頃にフィールドに出て、熱中症に気を付けながらデータ収集をおこなっています。

偶然にも、都市学科や当研究室の卒業生が事業者側の担当者として関わっており、クールスポットの設計に関わる技術的な相談を受けることもありました。また、反対に我々が現地調査を行う際には、測器の設置や保管などにご協力をいただきました。このように卒業生と一緒に仕事ができるのは、とても嬉しいことであり、大学教員の醍醐味でもあります。

最後に、学位記を得て喜びに溢れる 2023 年度卒業生・修了生の写真を載せます。当研究室では、修士卒 3 名と学部卒 5 名が学位を得て修了しました。大学院進学者 3 名、社会人 1 年生となった 5 名の皆さん、それぞれの場所での活躍を期待しています。そして、また数年後に一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

写真 1 学位記を持った卒業生・修了生
(2024 年 3 月 22 日)



化学的形態の把握が求められています。本研究室では重金属の溶出挙動の把握に繋がる基礎研究として、廃棄物焼却飛灰や飛灰溶出液全体での酸化還元特性の解明について研究を行っています。この研究では、一昨年度末に共同分析機器として導入された、ICP 質量分析装置 (アジレント ICP-MS7850) が活躍しており、卒業研究の他にも、学生実験やオープンキャンパスなどでも活用されています。

学会活動では廃棄物資源循環学会や環境技術学会、下水道協会、日本水環境学会、日本環境化学学会など様々な機会を活用して、研究発表を行っています。昨年度は、大阪工業大学で開かれた廃棄物資源循環学会にて当時 M2 の河原雄一朗さん、池田歩夢さん、高岡ふみかさんが、立命館大学で開かれた環境技術学会にて当時 M1 の長尾一毅さんが発表を行いました。今年は環境技術学会の第 24 回年次大会が 9 月 25 日に本学の杉本キャンパスで開催されるため、研究発表のみならず会場スタッフとして運営のサポートも行う予定です。

さらに、建設系廃棄物の有効利用について関連業界と研究者、行政機関が情報交換を行う建設資源リサイクル研究会 (会長は、本学名誉教授の山田優先生) を 30 年以上に渡って運営しているほか、廃棄物の処理や環境プラントの関連業界との情報交換を行う研究会を 5 年前から運営しており、社会との繋がりを意識するようにしています。昨年度は、研究会が主催した関西空港と JFE 条鋼水島製造所の見学会にも、何人かの学生も参加させて貰いました。

また、先輩方から環境・土木業界の情報を知ることができ、学生と教職員が共に楽しむことができる OB・OG 会やゼミ旅行などは、コロナ禍以降、実施できませんでしたが、ゼミ旅行は今年はなんとか開催できそうなので、今から楽しみにしています。

そのほか、大学の環境マネジメント推進室に学生委員として参画し、他学部の学生とも協力しながら、環境に優しいキャンパスを目指して活動している学生もいます。今年も公立大学法人大阪としての環境報告書を作成することができました。

都市会の皆さまには、ゼミ旅行先、共同研究、学生の就職活動などでこれからも多々お世話になると思いますが、引き続き、ご指導のほど宜しくお願い致します。参考：公立大学法人 大阪環境報告書 (2023 年度版)
<https://www.omu.ac.jp/assets/environment2023.pdf>

都市リサイクル工学分野

都市リサイクル工学分野のスタッフは、貫上佳則教授と水谷聡准教授、年見寛和技術職員の 3 名の教職員と、秘書の坂井圭子さんの 4 名です。本年度の学生は、社会人ドクターの 2 回生 1 名、修士課程の 2 回生 2 名と 1 回生 4 名、学部 4 回生 6 名と 3 回生 1 名の計 14 名です。長く続いた新型コロナウイルスの影響による食事や会議等の制限はほとんどなくなり、以前の対面での活動が再開し、研究活動も活発になりつつあります。

都市リサイクル工学という研究分野ですが、ごみに関する研究だけでなく、廃棄物処理システムの適正管理、廃棄物・廃水からの資源エネルギー回収、リサイクル時の環境安全性評価と分析手法の改良、都市の廃棄物処理・上下水道システムの減災化、震災時の化学物質の挙動の予測など様々な研究を行っています。

研究の一例として、廃棄物焼却飛灰及び飛灰溶出液の酸化還元に関する研究を紹介します。焼却飛灰には酸化数によって有害性が変化する重金属が含まれており、埋立地における浸出水の安全性の確保のためにも、重金属の溶出挙動としては、濃度だけでなく、



卒業・修了式の日の集合写真

環境水域工学分野

環境水域工学研究室では、相馬明郎教授（専門：水圏生態工学）、遠藤徹准教授（専門：水圏環境工学）、小池敏也技術職員（研究支援課）の体制で、沿岸域の生態系の仕組みと機能を数理モデル化、フィールドワーク、環境データ解析により解き明かし、都市沿岸域の目指す将来像を探求しています。

2023 年度の研究室メンバーは、前期博士課程 2 回生：6 名、1 回生：3 名、学部 4 回生：5 名、学部 3 回生：7 名という体制でした。研究テーマとしては、

- ① 都市沿岸生態系による気候危機抑制と豊かな海再生の両得に関する研究
- ② 生態系の食物網からみたイカナゴ・イワシ・ノリ減少要因と打開策に関する研究
- ③ 気候危機下におけるマングローブ・海草・サンゴ生態系の機能と保全の探求
- ④ 自然システム-経済システムの統合による気候変動－経済活動の最適化の研究
- ⑤ ブルーカーボン・食糧供給・水質浄化の統一解釈をめざす新規数理モデルの研究
- ⑥ 都市内湾におけるブルーカーボン像（CO₂ 交換特性と炭素貯留効果）の実態把握
- ⑦ 定点観測カメラと AI 技術を活用した沿岸環境の簡易モニタリングシステムの開発
- ⑧ 都市沿岸域に造成された浅海域の生態系サービスの評価と見える化
- ⑨ 環境統計データ分析による大阪湾の環境診断と将

来像予測

- ⑩ 都市河川大和川における遊水地の利活用（環境保全と治水対策）に関する研究

など、数理モデル・フィールド調査・室内実験・データ分析など、あらゆる手法を駆使し、大阪湾や播磨灘、東京湾などの沿岸域から全球スケールにおける水圏生態系に関わる研究を実施しています。

【2023 年度の研究室の主な活動】

- 第 26 回水環境学会シンポジウムにて相馬教授が基調講演を行いました。
- 関西土木工学交流発表会（大阪アカデミア）で M1 の後藤君が研究成果を発表しました。
- 第 70 回海岸工学講演会（京都テルサ）で卒業生の兩國君、大町君、古川さん、上村君、M2 の岡君が研究成果を発表しました。
- The water and environment technology conference 2023 で M2 の志村君が研究成果を発表しました。
- 第 59 回日本水環境学会年会（九州大学伊都キャンパス）で M2 の後藤君と田中君がポスター発表しました。
- ミュージアム連携講座 2023「大阪水辺をめぐる物語」にて遠藤准教授が講演しました。

2024 年度は、コロナによる行動制限もなくなり、4 年ぶりに研究室新年会を杉本キャンパスにて開催しました。工学部の中百舌鳥移転まであと数年ということで、来年も杉本キャンパスで開催予定です。ぜひご参加ください。



卒業生との記念写真

（2024 年 3 月 22 日：工学部 A 棟前にて）

都市デザイン領域

都市基盤計画分野

- 1) 教員及び学生
◇内田敬／教授

交通工学・国土計画：都市活性化のための来街者支援情報システム、交通需要予測のための回遊行動観測システムの開発、視覚障害者の街歩き支援ナビゲーションシステム

◇吉田長裕／准教授

交通環境工学：都市交通のグリーン化に関する研究、歩行者・自転車の快適性、安全性の評価方法に関する研究

◇学生（2024年度）：博士後期課程2名（うち1名は市大・後期博士課程）、博士前期課程9名、学士課程7名（大阪市立大学）、計18名。2023年度には、博士前期課程7名修了、学士課程5名卒業。

◇研修生(2023年度)：1名（大阪市・計画調整局より）

2) 活動状況・成果報告

2023年度の教員と学生の活動状況等です。

<教員活動状況>

内田：2023年5月～2024年5月に、土木学会関西支部の副支部長を務めました。また、議長を務める大阪・関西万博来場者輸送対策協議会の「アクションプラン（第2版）（第3版）」が公表され、コメントがTVニュース、新聞等で報道されました（2023年11月20日、2023年5月26日）。

吉田：NHK東海の番組に出演(2023年5月19日)、読売新聞九州版(2023年8月3日)、NHK関西(2023年12月1日)でコメントが掲載されました。

<受賞>

吉田准教授連名の研究発表が、自転車利用環境向上会議において、会長賞を受賞しました。

<修士論文題目：7編>

都市高速道路合流部車両軌跡の機械学習モデルに関する研究／都市高速道路サグ部の車両軌跡群再現のためのミクロ追従モデルに関する研究／大都市周縁部における地域公共交通の持続可能性向上に関する研究／自動運転車混在時の複数歩行者横断挙動分析のための仮想実験環境／「ことばの観光地マップ」YouTubeコンテンツ作成に関する研究／ナチュラリスティックデータを活用した高校生の自転車安全利用に関する行動変容要因の事例研究／軌跡データを用いた信号交差点における複数自転車と左折車との交通錯綜分析

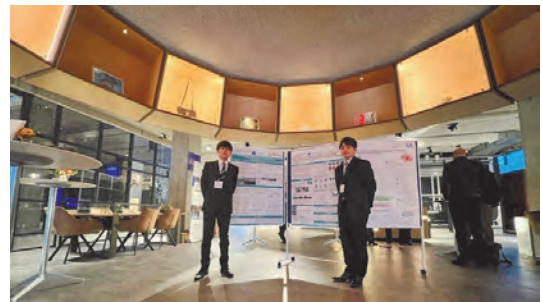
<卒業論文題目：5編>

chatbotを用いた障害当事者からの広域移動BF情報の収集自動化／盲導ロボット犬挙動検証のためのUnity実験環境への歩行者モデル導入／自転車シミュレータ実験による形状及び配置を考慮した自転車専用信号機の誤認度評価／滞留空間設置歩道における軌跡データを用いた歩行者交通流の比較分析／電動キックボード利用者のメンタルワークロードと生体反応に関する実験的研究

3) 写真でみる研究室の様子



研究室メンバーの集合写真（2024年3月）



修士2回生の国際会議発表（2023年11月 The Hague）



修士2回生の土木学会関西支部発表（2023年11月）

都市計画分野

2024年度の都市計画分野は、嘉名光市教授、高木悠里講師、後期博士課程3名、前期博士課程16名、学部4回生5名、研究生2名、研修生1名の体制で活動を行いました。

研究活動は、御堂筋やなんば広場（仮称）を対象とした都心の回遊性向上や滞留性改善にむけた研究、都市公園のマネジメントに関する研究、都市再生特別地区の公共貢献に関する研究、成熟都市における都市計画制度運用の見直しに関する研究をはじめ、例年通りの多彩な研究活動に取り組みました。

昨年度から取り組んでいる奈良県宇陀市室生集落のまちづくりは継続して取り組んでいます。室生寺で有名な集落ですが、空き家の活用に関する検討や、地形が生み出す景観特性の把握といった、室生の個性を見出す分析などを進めています。また、中之島ガーデン

ブリッジの橋上利用に関する社会実験にも取り組んでいます。

また、今年度も数多くの論文や受賞をいただきました。高木講師が執筆した博士論文が日本都市計画学会学会賞・論文奨励賞（持続可能な景観マネジメントに関する研究）を受賞しました。遠藤真仁（M1）くんが、ベトナム・ダナンで開催された Asian-Pacific Planning Societies 2023 国際会議において、Best Presentation Award 受賞（A Study on Pedestrian Traffic and Staying Behavior around Urban Main Street: A Case of Social Experiment Midosuji Challenge 2022, Osaka）を受賞しました。また、神田佳祐(M1)くんが、第3回エリアマネジメント研究交流会、研究発表部門アワード受賞（メインストリートに接する横道における歩行者行動に関する研究 -大阪難波地区を対象として）を受賞しました。

研究室の活動の詳細はホームページで報告していますので、ごらんください。

<https://www.omu.ac.jp/eng/urbanplanning/>



卒業式当日の記念写真



千里中央公園でのワークショップに取り組む学生たち

環境図形科学研究室

2024年度の環境図形科学研究室では、学部教育において専門科目の建築図形科学1、図形科学1、建築図形科学2、図形科学2、全学共通科目の初年次ゼミナールを担当し、大学院教育では、建築情報処理特論と

特別演習を担当します。

以下は2023年度の主な活動です。

<幾何学、グラフ理論などの数理に基づいた建築・都市の設計手法の探求>

日本建築学会大会は京都にて開催され、加藤君、戸谷君、森君、吉田君が研究発表を行いました。

カナダのハリファックスで開催された国際会議 Bridge 2023 にて有宗君が作品展示を行いました。

情報・システム・利用・技術シンポジウムが東京にてハイブリットで行われ、森君、小林が研究発表（対面）を行いました。

建築情報学会学生レビューがハイブリットで開催され、岩崎君が研究発表（オンライン）を行いました。

<卒業論文題目>

- VRを用いた御堂筋歩道拡張による歩行者の視線変化
- 生成AIによる仮想都市画像を用いた街並みらしさの分析
- 3D都市モデルを用いたランドマークに関する街路ネットワーク分析
- ChatGPTとKJ法を組合せたコンセプトメイキングの検討

<学会活動>

- 建築学会大会に合わせて「情報ワークショップ」を9月に開催しました（写真1）。
- 情報シンポにてOS（ハイブリット）を12月に開催しました。

2024年度はM2が5名、M1が2名、B4が4名、小林を含めて11名体制で研究活動を進めていきます（写真2）。また、他学科の引っ越しに伴い、学生室をG501に移動しました。

日本建築学会 デザイン科学小委員会におきましては主査、建築情報学会では、論文編集小委員会の副主査を務めます。

引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



図1 情報ワークショップ



図2 送別会にて研究室学生とともに

空間情報学分野

空間情報学分野の教員は米澤剛教授と杉本賢二准教授の2名であり、2024年度は客員研究員1名、大学院博士後期課程1名、博士前期課程3名、学部4回生4名の計11名が研究室に在籍しています(写真1)。また、2024年4月から新たに空間情報学研究室は学術情報総合センター9階・10階から工学部G棟5階に移動しました。今後、徐々に部屋を整備し、研究・教育環境を整えていく予定ですので、是非お気軽に研究室にお越しください。

空間情報学分野の2023年度の主な活動について、学部教育として都市学科の「都市学入門」、「測量学Ⅱ」、「測量学実習」、「都市総合演習」、「都市防災総論」、「環境創生総合演習」を分担担当、全学の「初年次ゼミナール」、「大阪の都市づくり」を提供しました。大学院教育として「空間情報学特論」、「空間情報学特別演習」を提供しました。また、空間情報学研究室では、学生たちは毎月2回の個別ゼミと1回の合同ゼミをおこない、卒業論文や修士論文に関する研究を進めています(写真2)。それ以外の活動として、6月には櫻井健一さん(D2)が第34回日本情報地質学会講演会において研究発表をおこないました。7月には都市科学・防災研究センターが主催する防災士養成講座が開催され、米澤教授が「災害情報の活用と発信」の講義を担当しました。8月のオープンキャンパスでは杉本准教授がリモートセンシングに関する模擬講義をおこない、研究室ブースにおいて4回生、博士後期・前期課程の院生が研究室や各自の研究紹介をおこなってくれました。9月には杉本准教授が第29回GIS上級技術者教育講座(地理情報システム学会関西支部)において基調講演をおこない、櫻井健一さん(D2)が大阪公立大大学

院工学研究科国際シンポジウムにおいて研究発表をおこないました。10月には坪倉大侍さん(M1)が第32回地理情報システム学会学術研究発表大会において研究発表をおこないました。11月には米澤教授と櫻井健一さん(D2)がベトナム(ハノイ市)で開催された国際シンポジウムGIS-IDEAS2023において研究発表およびベトナム・ニンビン省における野外調査をおこないました。2024年3月には米澤教授が大阪府環境農林水産部講演会において基調講演をおこないました。2023年度卒業式・学位記授与式(3月)では、4回生5名が卒業しました(写真3)。2名は大阪市役所、1名は堺市役所、2名は本学大学院に進学しました。今後も空間情報学研究室や都市学科で学んだことを社会で活かしてくれることを期待しています。



写真1 2024年度の空間情報学研究室メンバー
(2024年4月)



写真2 研究室合同ゼミの様子(2023年11月)



写真3 2023年度卒業式・学位記授与式(2024年3月)

就職ガイダンス

学生のキャリア形成支援活動の一環として、全学の就活イベントに加えて、学科・分野独自の業界説明会等を昨年度も開催しました。最近の採用活動の早期化を踏まえて開催始期を前年よりもさらに早めて、「業界説明会（第 1 回）」を 2023 年 10 月 26 日に開催しました。その後、1 ヶ月程度の間隔で順次開催した「業界説明会」の第 2 回、第 3 回、「合同企業 OB/OG 相談会」の計 4 回の説明会等で、延べ 44 社・団体にご協力いただきました。

ようやくコロナ禍が明けたことから、講演が主体となる「業界説明会」は全面的に対面で開催しました。ブース形式で実施する「合同企業 OB/OG 相談会」は、Zoom ブレークアウトルームを仮想ブースとして全面オンラインで開催しました。

イベントごとの、ご協力いただいた企業・団体は下記のとおりです。多くの先輩諸氏にご尽力いただきました。また業界説明会の際には、終了後に都市会主催で学生参加費無料の懇親会を計 3 回開催していただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

業界説明会（第 1 回）：2023 年 10 月 26 日

- ・ゼネコン：大成建設(株)
- ・コンクリート製品：ケイコン(株)
- ・建設コンサルタント：オオバ(株)
- ・鉄道：日本貨物鉄道(株)
- ・道路：西日本高速道路(株)
- ・空港運営：関西エアポート(株)
- ・環境プラント：(株)神鋼環境ソリューション
- ・公務員：水産庁（漁港漁場整備部）

業界説明会（第 2 回）：2023 年 11 月 30 日

- ・マリコン：五洋建設(株)
- ・建設コンサルタント：いであ(株)
- ・鉄道：大阪市高速電気軌道(株)
- ・道路：阪神高速道路(株)
- ・電力：電源開発(株)
- ・橋梁：(株)IHI インフラシステム
- ・開発：阪急阪神不動産(株)
- ・公務員：神戸市

業界説明会（第 3 回）：2023 年 12 月 14 日

- ・ゼネコン：(株)銭高組
- ・建設資材：(株)アイゾールテクニカ
- ・建設コンサルタント：(株)地域計画建築研究所
- ・鉄道：西日本旅客鉄道(株)
- ・環境プラント：(株)プランテック
- ・メーカー：ダイキン工業(株)
- ・公務員：近畿地方整備局，奈良県

合同企業 OB/OG 相談会：2024 年 1 月 12 日

- ・ゼネコン：前田建設工業(株)，(株)鴻池組，西松建設(株)
- ・マリコン：東亜建設工業(株)
- ・建設コンサルタント：(株)ニュージェック，中央復建コンサルタンツ(株)，中央コンサルタンツ(株)，キタイ設計(株)
- ・インフラ：四国電力(株)，東海旅客鉄道(株)，首都高速道路(株)
- ・橋梁（メーカー，設計）：駒井ハルテック(株)，(株)長大
- ・プラント：(株)タクマ
- ・設備：(株)NTT ファシリティーズ，(株)ダイダン
- ・公務員：大阪市，大阪府（土木職），大阪府（環境職），和歌山県

特別寄稿

全国の大学等で活躍する卒業生（その 4）

阿南工業高等専門学校創造技術工学科
建設コース 教授
吉村 洋
(平成 2 年卒)

都市会のみなさま、こんにちは。阿南高専の吉村です。私は昭和 63 年 3 月に学部を、平成 2 年 3 月に大

学院修士課程を修了しました。卒業研究論文、修士論文では、土質工学研究室で東田先生にご指導を受け、地中埋設管の挙動を遠心実験や FEM 解析で検討しました。大学院修了後は 11 年間、株式会社鴻池組技術研究所に勤務し、地盤工学関係の調査研究業務に携わってきました。平成 13 年から阿南高専に移り、現在に至っております。

ご存じのように、高専は中学校を卒業後、5 年間の一貫教育によって実践的・創造的技術者を養成することを目的とした高等教育機関です。したがって、高校

に相当する部分と大学に相当する部分が合わさったものとなっております。5年間の本科を卒業すると准学士の学位が授与され、さらに2年間の専攻科に進むと大学生と同じ学士の学位を授与することができます。

阿南高専での勤務も24年目となります。その間、平成17年度には大阪市立大学大学院に10か月間、内地研究員として派遣されました。

また、平成21年度には高専間教員人事交流制度により1年間、長野高専都市環境工学科で勤務いたしました。

阿南高専での授業は土質工学、地盤工学、土質実験、施工管理学などの科目を主に担当しております。さらに、5年生の卒業研究・専攻科2年生の特別研究では、地中構造物の合理的設計に関するテーマについて、主として解析手法を用いて、研究指導をしております。また、学生の課外活動では柔道部の顧問を担当しており、技術的な指導はできないものの、練習の立ち合い、大会での試合の引率など行っています。このように学生の教育、指導に加え、近年はコース主任、専攻科長、学科長といった学校を運営していく立場にもなってきました。

おかげさまで、このように充実した教員生活を送っており、阿南高専の校訓である「真理・創造・礼節」をベースに学生が将来、有為な技術者と育成できるように教育、指導を今後も続けていきたいと思っております。

これからも、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。また、徳島・阿南にお越しの際は、ぜひ、お立ち寄りください。



海外便り (その3)

鹿島建設株式会社
 バングラデシュ駐在員事務所
 田坂 敬介
 (平成8年卒)



2023年版開発協力(ODA)白書の冒頭「世界が歴史的転換点にあり、複合的危機に直面する中(略)」

の通り、テロ・クーデター・戦争や疫病等、30年前私が過ごした大学時代とは大きく異なる世界情勢となりました。この度、海外だよりへの寄稿依頼を頂戴し、簡単ですが近況をご報告いたします。

まず、自己紹介をいたします。1973年生まれ団塊ジュニアの世代です。神戸市出身、神戸高校時代にラグビーを始めました。大学時代は、体育会ラグビー部に所属しており2シーズン関西大学Aリーグ(当時唯一の国公立大)でプレー、4回生時は主将として活動、正直なところ学業よりラグビーに重きを置いてしていました。大阪市立大学を平成8年卒業後、建設会社の「鹿島」に入社、国内で設計部門や造成・トンネル(山岳、シールド)・臨海工事等現場勤務を経て2006年から海外勤務。これまでベトナムで水力発電所建設工事、アルジェリアで高速道路建設工事(100kmを超える工区、主要工種は土工と橋梁)、インドネシアで高架道路建設工事、シンガポールで営業を経験、現在バングラデシュに駐在しており営業を担当しています。上述の通り、幅広い工種や工務・契約管理等の職種も経験しました。

バングラデシュは面積約14万km²(日本の約1/3)に人口約1億7千万人、首都ダッカは世界有数の人口密度です。1971年の独立より日本はバングラデシュを様々な面で支援しています。直近では継続して年間約3,000億円にのぼる円借款を供与、重要なODA供与先となっており、空港・港湾・橋梁・鉄道等の大規模インフラ事業が進められています。一方、2016年に発生した大規模テロ(日本人7名を含む28名の死者)等により顕在化した治安面や、衛生・環境面のストレスは大きく、現地での生活は日々の安全・体調管理が一番の課題です。

社会人となってから現在もラグビーを継続しており、ラグビーを通じた交流を楽しんでいます。アルジェリア時代には塙に囲まれたキャンプ生活で余暇を持て余した未経験者を集めてチームを設立し、パリやドイツに遠征、イギリス、オランダ等の日本人会チームも加わり交流戦を行いました。アジアでは年に一度各国・地域から十数チームが集まり交流戦を行っています。2013年にはジャカルタチーム主将とし



右から筆者、松元秀亮氏

て交流戦 4 位の好成績、ラグビー部後輩でもある OB 松元君 (H10、修 H12、元ラオス代表) と一緒にプレーし奇縁を喜びました。

都市会のご縁で先日、会報第 9 号 (2022 年 9 月) に寄稿された三原さん (H7 卒、IHI インフラシステム) の現場「バンガバンドゥ橋」を見学させていただきました。当地を代表する大プロジェクトでご活躍されている先輩に刺激を受けました。私もいつか案件を入手し、その際には改めて工事概要等をご紹介したいと思えます。建設会社に身を置く自らの役割をきちんと果たすことで

インフラプロジェクトを通じて経済発展に寄与し、世界の人々のお役に立てることができたら嬉しいです。



2024 年 3 月バンガバンドゥ橋にて、
左：三原邦啓氏、右：筆者

今後も大阪公立大学及び都市会のさらなる御発展と、世界各地でご活躍されている会員の皆様のご健勝を心からご祈念申し上げます。

業界便り (その 1 セメント業界)

住友大阪セメント株式会社
齋藤 尚
(平成 19 年卒)



私は 2007 年に土木工学科を卒業、2009 年に都市系専攻を修了した後、住友大阪セメント(株)に入社しました。入社以来ほとんどの期間を研究所で過ごし、15 年が経過しました。ここでは、これまでの 15 年間について振り返りつつ、現在の取り組みについても紹介させていただきます。

入社後に最初に配属されたのは研究所のプレキャストコンクリート製品 (以下、PCa 製品) の技術開発を行う部署でした。ユーザーと共同で PCa 製品のひび割れ低減や白華抑制、海洋暴露環境下での耐久性評価などに取り組みました。また、PCa 製品の分野に限らず、低炭素型コンクリートの開発・実用化やマスコンクリートの温度応力解析、ポーラスコンクリート舗装の開発など、様々な実験や解析に取り組む機会を与えてもらいました。特に、入社してから最初の 5 年間はコン

クリートの基礎的な研究から実用化に向けての研究まで経験することができ、振り返ると今の私の礎を築いてくれた重要な期間になったものと感じています。

2014 年からはコンクリート全般の技術開発を行う部署に変わり、大学と共同でセメント系自己治癒材料の開発を中心に取り組みました。会社からはこの研究で成果が出れば、学位取得のチャンスがあると言われていたため、日々実験に明け暮れていました。ただそうしている間に、2018 年から東京エスオーシー(株)に 1 年数カ月出向することになりました。出向先では、生コンクリートの品質管理や高強度コンクリートの大臣認定取得に取り組みました。当時東京 23 区内の再開発などで生コンクリートの出荷が旺盛な時期であったため、業務に慣れるまで体力的に厳しかったところはありますが、生コンクリートの品質管理や設備などについて学ぶことができ、非常に良い経験になりました。また、出向期間中は学位取得の時期も重なったため、出向先の業務を行いつつ論文をとりまとめ、2019 年になんとか無事に学位を取得できました。その後、2019 年から研究所の元々在籍していた部署に戻り、主にフレッシュコンクリートの流動性やポンプ圧送性の改善といった出向先での内容に関連するような分野の研究にも取り組んでいました。

さらに、ここ数年は会社としてカーボンニュートラル (以下、CN) 達成に向けた取り組みを開始しています。セメントメーカーは、セメント製造時に多くの温室効果ガスを排出している企業です。セメント製造時に発生する CO₂ には、セメント焼成時に化石燃料から発生するエネルギー起源 CO₂ とセメント主原料の石灰石の脱炭酸によるプロセス由来 CO₂ の 2 種類があります。当社では CN の実現に向けたビジョン「SOCN2050」を掲げ、2050 年の CN を達成すべく様々な研究開発に取り組んでいます。研究開発の一例として、NEDO グリーンイノベーション基金事業「CO₂ を用いたコンクリート等の製造技術開発プロジェクト」の「多様なカルシウム源を用いた炭酸塩化技術の確立」について取り組んでいます。この取り組みでは、焼却灰や廃コンクリートなどからカルシウム源を抽出してセメント工場から排出した CO₂ を固定化させた人工石灰石を生成し、セメント原料やセメント増量材、コンクリート用混和材として利用することを目指しています。詳細は当社のホームページや統合報告書に記載していますので、ご興味がある方は参照いただければ幸いです。

最後に、昨今の CN を始め、今後 10 年 20 年先の建

設業界を取り巻く環境は大きく変化していくと思いますが、現状に満足することなく、業界の発展に微力な

がら貢献できるように、新たな技術の開発に努めています。

イベント開催報告

第10回大阪公立大学都市会 東京支部総会 報告

令和5年11月17日(金)に、第10回大阪公立大学都市会東京支部総会が東京品川駅近くの「品川大衆バル Cham (チャム)」で開催されました。都市会東京支部は、土木会の東京支部として昭和60年に発足し、平成3年から毎年、原則として土木の日に合わせて支部総会を開催しており、会員の親睦、近況報告等を行っています。今回は、毎年開催していた店舗が改装中であったため、貸し切りできる店舗を新たに探し、例年とはまた少し違った雰囲気の中、東京支部総会を開催いたしました。

当日は来賓として、都市会本部より藪内 弘 会長、並びに重松 孝昌幹事長にご参加をいただくとともに、東京支部として、昨年退官されました大島 昭彦名誉教授にご参加いただき、会員25名と合わせて28名で開催いたしました。

総会は、藪内会長の来賓挨拶に続いて重松幹事長の乾杯で始まり、会員同士の懇親を深めました。歓談の途中には、大島名誉教授にご自身の近況も交えてご挨拶いただき、続いて東亜建設工業(株)代表取締役 早川 毅 様 (H1 卒) にもご挨拶をいただきました。

さらに、大成建設(株) 中島 裕樹様 (H28 卒) には、話題提供として、土木の魅力向上プロジェクトのお話をいただきました。コロナも落ち着きつつある状況を踏まえ、4年振りに立食形式での会食としましたが、若い方々にも多くご参加いただき、懇親会も盛況の中、水野さん (S49 卒) の中締めで、無事に総会を終えることができました。ご多忙の中、ご出席していただきました各会員の皆様には、心よりお礼申し上げます。

令和6年度の支部総会は、11月15日(金)に場所を例年のアリス・アクアガーデン品川に戻して開催予定です。品川駅から徒歩3分と新幹線への便も良いので、出張等で上京の方や、逆に東京へ帰省される方も是非ご参加ください。

また、転勤等で関東地区に異動になられた方は、東京支部幹事までご連絡ください。

会費は新卒、現役学生の方は無料、卒業後5年未満の方及び65歳以上の方は4,000円、それ以外の方は

6,000円となっております。

大阪公立大学都市会東京支部

幹事 山西和也 H7 卒

E-mail : yamanishi-kazuya@toyo-const.co.jp



第29回都市会ゴルフコンペ報告

第29回都市会(旧市土会)ゴルフコンペが令和5年11月29日に聖丘カントリー倶楽部にて開催されました。参加者は寺田(49)・村松(49)古谷(49)・古川(54)・安達(55)・楠田(55)・原田(55)・里深(60)・岡田(60)・辻村(63)の10名です。今回は初参加が5名とフレッシュなメンバーとなりました。

小春日和の天候のもと、楽しく・無事にプレイして親睦を深めることができました。懇親会では各賞の発表があり、優勝は辻村隆(S63 卒)さんが初参加での栄光に輝きました。ゴルフ人口の減少で当会の参加者も年々減少していますが、今回は初参加が多く今後の増加に期待が膨らみました。ちなみに過去の参加人数は第1回(1990年)59名、第10回(1999年)31名、第20回(2009年)15名です。次回は令和6年の秋の予定です。参加者が増えて会の繁栄を期待しています。

報告 幹事：岡田(S60 卒)、吉田(S62 卒)



連載企画 『10年ひと昔で強める同期の絆』

10年ひと昔 長いようで過ぎてみると短い外面の変化は隠しようがないけど、
心根は卒業の時のまま

その積み重ねで気がつけば〇年

そんな区切りの年を迎えられた学年の同窓会の様子を語っていただきます
毎年区切りの年はありません 次はあなたの学年ですよ

卒業 60 周年の同窓会 伊藤 和雄 昭和 38 年卒

市大土木昭和 38 年卒は昨年卒業 60 周年ですが記念の同窓会は一年遅れで開催することになりそうです。50 周年の同窓会も一年遅れで開催しました。出席簿の一番上に名前があるだけの幹事の入院手術が記念の年に起こってしまったことが理由のひとつです。昨年は肺炎で 1 か月入院し退院後も夏の暑さで体調が戻らず 1 年先でもいいかと伸ばしてしまいました。

38 年卒は入学時も卒業時も 23 名で、卒後 28 年（平成 3 年）の名簿でも 23 名全員が健在でしたが、卒後 30 年頃に開催した同窓会では最初に献杯をしたことが思い出されます。最近の名簿では 9 名が亡くなっており残っているのは 14 名です。

今年同窓会を開催すると参加者は全員 84 歳か 85 歳になっていますのでこれまで通りのやり方で良いのか迷っています。そこで E メールと郵便で近況を知らせてもらい、どのような同窓会にすれば良いか相談してみたいと思っています。

これまでも節目の同窓会以外にも遠方に居住している同期の仲間が関西方面に里帰りした時期に合わせて急遽集まれる者だけでミニ同窓会を開催しているので、数年に一度程度同窓会らしきことはできているのかなと思っています。

私事ですが 70 歳目前の頃脊柱管狭窄症が悪化して杖をついても百メートル歩けなくなり、70 台半ばで人生も終わりかと覚悟を決めた時がありましたが、昔の山歩きの仲間が元気に近郊の山を毎月歩いているのを知り思い切って背骨の手術をしたおかげで年に数回歩く会に参加でき今年にも 85 歳の誕生日を迎えることができそうです。

齢を重ねると人との付き合いや出かけることが面倒

になりがちですがいろいろな機会を利用して適度な刺激を受けることが健康や長寿の秘訣ではないかと痛感しています。

自宅の改築のため荷物をあちこちに移動させたので同窓会の適当な写真が手元にありません。数年前に北海道から夫婦で里帰りした同期の仲間と旧交を温めるため難波の料理屋に急遽集まった時の写真を載せたいと思います。



遊 心 浅井 真一 昭和 48 年卒

1973 年卒業の浅井です。

私は、元々古来から現在に伝わっている伝統的な文化、絵画、彫刻並びにクラシック音楽などに興味がありました。

私が大学に入学した 1969 年から 1970 年は、1970 年の万国博覧会を記念して世界の一流のクラシック音楽の招へいがあり、自分の好きなクラシック音楽のコンサートによく行きました。

レナード・バーンスタイン指揮ニューヨーク・フィ

ルハーモニックオーケストラでマーラーの交響曲第 9 番、ムラヴィンスキー指揮レニングラード・フィルハーモニー管弦楽団でチャイコフスキーの交響曲第 5 番、ベートーヴェンの交響曲第 4 番などを聴きました。

また、ベルリオーズの幻想交響曲は、レコードで聴くと感動しなかったが、生演奏はとても良かったです。これはコンサートを聴きに行き分かったことです。

イ・ムジチ室内合奏団の演奏によるヴィヴァルディの合奏協奏曲「四季」は、国内では当時クラシック音楽のレコードとしては異例の 100 万枚以上の売り上げがありました。超人気のイ・ムジチ室内合奏団のコンサートのチケットを入手し、聴いた演奏は最高でした。

国内の演奏家による演奏会は、朝比奈隆指揮、大阪フィルによる演奏でシューベルトの交響曲「未完成」とベートーヴェンの交響曲 No.5 を聞きました。

卒業してゼネコンに入社し、現場に配置されました。仕事を優先してコンサートを聴く機会が減りましたが、絵画等の展覧会は会期内の可能な日に行けるので、絵画鑑賞が増えました。

ピカソ、ゴッホ、ターナー、レオナルド・ダ・ヴィンチなどのヨーロッパの絵画と彫刻及び雪舟、俵屋宗達、狩野派、琳派の絵画並びに北斎、広重、歌麿などの浮世絵などの日本の絵画と仏教の彫刻などをよく鑑賞しました。

他にアジアの文化としてはクメールの文化展で石の彫刻、宝石を飾り付けた王の刀などは、今まで観てきたヨーロッパおよび日本と全く異なり、驚きました。

長期休暇を取れた時、念願のイタリア、イギリス、フランスに旅行し、ウフィツィ美術館、大英博物館、ルーブル美術館を巡り、ミロのヴィーナス、レオナルド・ダ・ヴィンチのモナ・リザ、ボッティチェリのヴィーナスの誕生などの名作を鑑賞出来ました。

イタリアのフィレンツェのウフィツィ美術館に行く日には興奮してか朝 4 時頃に目覚め、すぐに着替えて街を散歩していると早朝にもかかわらず住民が集まり、街を清掃しているのを目撃した時は地元の人たちは本当に街を愛しているのには感心しました。

コンサートでの生演奏を聴き、展覧会では本物の作品を見ると自身の心の栄養になり、自分の成長になったといつか思う時が来ます。是非、芸術の鑑賞を楽しみましょう。



S48 卒 暑気払い同窓会 2023.07.31

山本 智 昭和 58 年卒

1983 年（昭和 58 年）に学部を卒業してから早くも 40 年が経ちました。1985 年に大学院を修了して大阪市に 32 年間、その後大阪市を退職して大阪市の外郭団体のクリアウォーター OSAKA (株) (CWO) に 4 年間在籍し、2021 年 3 月に 60 歳で定年退職しました。36 年間のうち 1 年間だけ水道の仕事でしたが、それ以外は下水道の仕事でした。定年退職したころは、コロナ禍で行動制限もあり、毎年 5~6 人で集まっていた同級生との飲み会もなくなってしまいました。また、そのころに同級生もみんな退職して職場が変わるなどで、メールが届かず連絡がつかなくなったこともあり、それ以降は同級生と会うこともほとんどなくなりました。

最近の同級生との交流といえば、2023 年の夏ごろに、新大阪近辺で仕事をしている同級生の中村君と飲み

阪神高速 1 号環状線リニューアル工事
HI-SPEC シール工法 (LT タイフ)

「水」で人と未来を守る。

株式会社アイゾールテクニカ
isol technica

YouTube

行く機会がありました。話題といえば両親のことや健康のことで、典型的な年寄りの話題になってしまいました。ただ、どちらもまだ元気なので、当分は大丈夫そうです。(笑)

同級生の中にはすでに他界した人もおり、大学の同級生との年賀状のやり取りもだんだん減ってきていて、今は先生も含めて 10 人ほどで、少しずつ寂しくなっています。

私自身の近況ですが、CWO のリクルート活動で学校回りをしている中で、何となくもう一度学校に行きたいと思うようになり、ダメ元で大阪市立大学大学院都市経営研究科を受験したら受かってしまいました。CWO を定年退職後は就職する気もなかったのですが、2021 年 4 月から専業学生になりました。この大学院は、学部はなく、社会人を対象とした大学院大学で、授業は平日の夜と土曜の朝から夕方まで、キャンパスは梅田の大阪駅前第 2 ビルの 6 階にあります。平日の昼間は時間が取れることやキャンパスが梅田にあつて便利なので、仕事をしながら通えることが売りです。ところが、授業はハイレベルで、2 回生にもなると修士論文のための現地調査やヒアリング、毎週土曜日のゼミ、修士論文執筆に追われる毎日でしたが、仕事に就かずに学校に通ったことで時間に余裕があったのでなんとかついていけました。

大学院は無事 2 年で修了し、2023 年 4 月から上下水道の設計コンサルタントの東京設計事務所に週 3 日勤務しています。職場は新大阪駅の近くで、毎回違う店に昼食を食べに行くのが楽しみの一つです。

趣味は、城跡巡りや街道歩きで、17~18 年前から 100 名城や続 100 名城に指定されている城跡を中心にあちこち訪問しています。100 名城制覇まであと 14 城、続 100 名城制覇まであと 17 城ですが、遠方ばかり残っていて制覇できるかどうかもちよつとわからなくな

ってきました。自分はまだまだ若いつもりでも、少しずつ体力がなくなってきましたが、体や頭を使って体力を維持しながら、まだ元気うちに、たまには孫の相手もしながら、城跡巡りや街道歩きなどであちこちへ行きたいと思っている今日この頃です。



続 100 名城の岩櫃城址(群馬県)にて(2024 年 4 月 15 日)

卒業後 20 年の現在 近安 規晃 平成 15 年卒



平成 15 年に土木工学科を卒業して、早 20 年が経ちました。

私は、大学卒業後、大学院へと進学し、そして平成 17 年 4 月に大阪市に入社しました。大阪市では建設局に配属され、橋梁事業の設計担当 6 年、現場事務所 3 年、予算部署 2 年、御堂筋の道路空間再編担当 3 年、万博関連部署 4 年を勤め、昨年の 4 月に国土交通省都市局街路交通施設課に出向し、現在に至っています。一つの部署に在籍する期間が比較的長く、各部



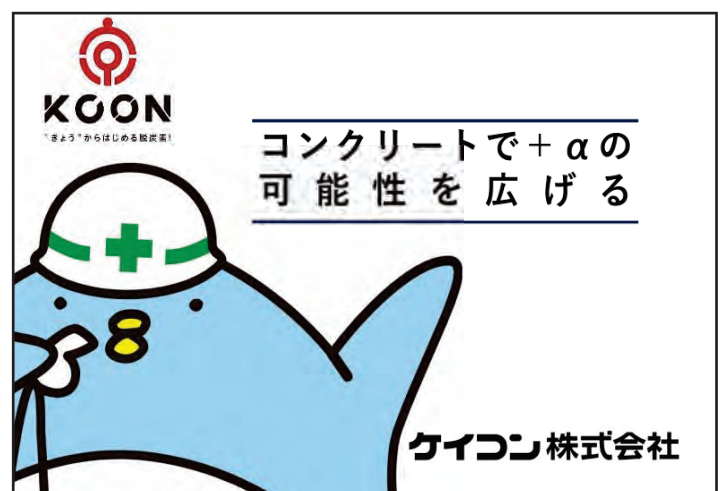
署では充実した時間を過ごしてきたと感じているところ
です。

その中で特に印象に残っているのが、御堂筋の道路
空間再編担当だった3年間。御堂筋は、大阪万博の開
催となる1970年(昭和45年)に交通問題対策の一環
として、御堂筋を含む大阪都心の幹線道路を双方向通
行から一方通行化されましたが、それから50年以上
経った現在、まちなかのストリートには、移動・交通
のためのリンク機能だけではなく、憩い、賑わい等の
目的地としてのプレイス機能も求められるようになって
きています。このような時代の変化を捉え、御堂筋
を車中心から人中心のストリートへ転換すべく、まず
は側道の歩行者空間化に取組み、御堂筋が完成して
100周年を迎える2037年をターゲットイヤーとして、
全面を歩行者空間に転換するフルモールドビジョンを
掲げています。この将来ビジョン策定するにあたって
は、地元関係者をはじめ、有識者、様々な関係機関と
調整が必要であり、かなり苦勞したと記憶していますが、
このプロジェクトに関わることが出来たことは、
自分自身のキャリアにとって大きな財産となっている
と思っています。既に担当からはずれていますが、
2025年の大阪・関西万博の開催までには、難波～心齋
橋までの区間が側道歩行者空間化される見込みとなっ
ています。関西に在住されている方はもとより、遠方
に在住されている方も大阪・関西万博で大阪に来られ
た際は、是非変化した御堂筋を見ていただきたいと思
います。

現在は、国土交通省都市局街路交通施設課に出向中
です。これまで大阪市建設局からでたことがなく、ま
た初めての出向ということで不安がいっぱいでしたが、
来てみれば仕事もプライベートもなんとかなっていま
す。都市局では、少子高齢化や人口減少が進む中、持
続可能な都市の発展に向け、コンパクト・プラス・ネ

ットワークな都市構造への転換やまちなかに居心地が
良く歩きたくなるウォークアブルな空間づくり等の取組
を進めているところですが、それらを実現するための
事業である都市・地域交通戦略推進事業やまちなかウ
ォークアブル推進事業等の担当をしています。各都市に
おける交通施策やまちづくり施策にふれるとともに、
北海道、東北、関東等の都市における現場視察を行う
など、大阪市ではなかなかできないような経験をさせ
ていただいていますし、担当業務以外にも、国の施策
に身近でふれることで自分自身の知見が広がり、大変
有意義な経験をさせていただいています。また、何よ
りもいろいろな人とのつながりができることが、一番
の財産になっていると実感しています。プライベート
では、恥ずかしながら、この歳になって初めて一人暮
らしをすることになり、改めて家族のありがたさを実
感しているところですが、東京に住んだことのない私
にとっては、行くところすべてが新鮮で、新宿、渋谷、
池袋、上野、浅草等、いろいろな観光地を巡り、充実
した日々を送っています。

同級生をはじめOBの方となかなかお会いする機会
がありませんでしたが、仕事や同窓会などでみなさま
とお会いする機会がありましたら、是非お声がけいた
だければ幸いです。



学年代表委員からの近況報告

昭和 50 年卒 文野 結紀

長い長い天神橋長いな、落ちたら怖いな（橋先生の授業より）。

橋のメンテナンスに明けてメンテナンスに暮れた、長い橋屋人生した。

30 年以内に必ず発生するであろう南海トラフ地震。落橋しないように

下部工、特に橋台の減災対策をしよう!!

我ら高齢者の集いはありません。在阪の 4~5 人の会を開く予定です。

生きていだけで丸儲けの人生!!

○思い出に残る三つの橋梁

名神と中国道を直結した吹田ジャンクション工事、若戸大橋の四車線拡幅事業、阪和道と歌山線の山岳橋梁・雄の山第一橋及び湯屋谷橋の橋梁。

○南海トラフ地震への備え 減災対策

南海トラフ地震への備えに、減災対策という概念を提唱された、河田恵昭先生の論説、「高速道路の今後の災害対策のあり方」（高速道路と自動車 第 51 巻第 9 号 2008 年 9 月）をご一読ください。（これまでやってきたような土木

学会的な課題を解消する対策を先行させる愚を犯してはいけない）ということで、（減災の考えを進めるべきだ）と結論付けられている。私はこの考え方に賛同して、東名高速道路の供用直後から橋梁のメンテナンスに携わり、吹田ジャンクション工事、若戸大橋の

四車線拡幅工事等々で経験してきたことをまとめたものの。

○魅力ある橋のメンテナンスのために 経験から得られた橋梁のメンテナンス技術

東名高速供用直後からの橋梁のメンテナンスに始まり、種々のメンテナンスを経験して、高速道路の災害復旧工事を締めくくりとした、長い橋梁のメンテナンスの記録。

昭和 42 年卒 五十嵐 英男

新型コロナ前には年 2 回ほど開いていた同窓会「三八会」も、コロナ期間中は開催が見送られてきた。ようやく 2023 年 10 月に、4 年ぶりの「三八会」を開催。参加者は 11 名（うち 1 名は東京から参加）と、まずまずであった。

久しぶりの同窓会は大いに盛り上がり、お互いの近況報告でこの 3 年間の空白が埋まったように感じた。今年は大半の者が傘寿を迎える。これからも元気に「三八会」に集いたいものである。

昭和 43 年卒 永井 修三

昨年卒業 50 年（コロナで 1 年遅れ）の同窓会が開催され、久しぶりに旧友と歓談した。参加者 22 人、数

土木構造物の
維持管理の全局面を担う
調査・診断、設計、施工管理支援

 株式会社 CORE 技術研究所
<https://www.coreit.co.jp>

本 社 〒530-0047 大阪市北区西天満1丁目2番5号大阪JAビル4F
Tel.06-6367-2122(代) Fax.06-6367-2322
東京支店 〒111-0053 東京都台東区浅草橋3丁目8番5号VORT浅草橋8F
Tel.03-5825-9166(代) Fax.03-5825-9170
九州営業支店 〒812-0026 福岡市博多区上川端町12番28号安田第一ビル5F
Tel.092-402-0227(代) Fax.092-402-0228

まじめに、まっすぐ
KONAIKE

建設はもちろん社会基盤の再生や環境保全の取り組みなど
私たちの事業は、明日を支えるために今日をがんばる仕事。
環境浄化技術をはじめ最先端の技術革新に挑戦しています。



鴻池組

人は現役、大半はリタイア。彼らは陶芸・絵画、ボランティア、町内会の役員、家庭菜園、養蜂、防災情報の発信等で活躍しているとの事。彼等に刺激された私は、ボケ防止に百人一首の暗記を始めた。今年は、体力維持のためにも、歌枕の地を巡る旅に出て、日本の古典に挑戦しようと思う。気楽な老後

昭和 46 年卒 伊藤 忠

最近偶然にも全く異なるジャンルの図書から街の景観に関する文章に出くわした。一冊は酒にまつわる随筆集の中で開高健氏が、もう一冊はドイツ文学者でエッセイストの池内紀氏が評論家で翻訳者の川本三郎氏との対談のなかで。要するに全国的に昭和の街並みがどんどん消えていく。大阪市内出身の開高は「大阪は帰る故郷でなく行く町になってしまった。なつかしさならパリの方がはるかに濃く感じる」。池内氏は「欧州の国々は、歴史は継続するもので記憶が切れたら歴史は切れてしまうと考えてるのでランドマークはたいがい残す。日本は経済と効率で壊してしまう。」

私も天王寺界隈で育ったのか、商店街の横道外れた長屋などには郷愁を感じるほうである。ウメキタにはどこか東南アジアの首都にでも来たような錯覚を感じる。阪急東商店街や天神橋商店街、それも横道にある木造家屋が好みだ。大好きだった夜の御堂筋も賑やかさが勝ってきたように感じる。

これも昔何かの本で読んだと思うが、うれしい街には、古本屋さん、読書のできる喫茶店、旬な食材を出してくれる呑み屋さんの三つ揃っているのが条件と書かれてあった。平成に入ってこのいずれもチェーン店が羽振りを利かしてきて、古本屋さんはアマゾンへ、喫

茶店は廉価けれども長居しづらいレイアウトへ、呑み屋さんに至っては年中同じメニューで同じ味。

京阪神の中心商店街を比べると、大阪の心斎橋は普通の商店街がミナミのど真ん中に、京都の錦市場商店街はより国際的な感じに、神戸元町商店街の店並びが昭和風情を残している様に感じる。

平成になっての非正規労働者数の増大、令和に入りコロナ禍に遭遇し学校、職場のリモート化の進展、30年は要するであろうと予測された生成 AI によるシンギュラリティの到来もまもなくとされている。所得保障を主にした世界で最も進んでいるといわれている社会保障制度も相対的貧困率が 15%以上となった今では国民の存在承認機会の保障が問われている。

教育環境、労働慣習、公的なサービスといった様々な分野でのデジタル化が一気に浸透し、日常生活の価値観が根本的に変化し始めている。戦後のきわめて恵まれた環境のなかで育ってきた我々団塊世代は昭和の郷愁感に浸るのか あるいは次世代の繋としての役割を果たすのか、いずれにしても、これからこの国はどの様になってゆくのか、この成り行きをゆっくりと観察したいものだ。まだまだ死ねません。

昭和 49 年卒 寺田 邦男

今年の 3 月で卒業後 50 年が経過しました。その記念に、昨年 12 月に有馬温泉で懇親会を開催しました。ゴルフに 2 組 6 名、宴会に 11 名、宿泊のホテルでの 2 次会に 9 名が参加し、大変楽しく、有意義な時を過ごせました。年齢を考えると最後の機会になると企画したところ、ありがたいことに参加者からも次回の開催を望む声が聞かれた。幸いなことに、同期の中で鬼



125 Years & Beyond
PENTA-OCEAN

新たな挑戦がはじまる

An Era of New Challenge Begins



五洋建設株式会社
<https://www.penta-ocean.co.jp/>

なにができるんだろう？



夢と希望にあふれた
社会づくりを実現させるために、
わたしたち大成建設は
これからも人がいきいきとする環境を
創造します。

地図に残る仕事。
大成建設
For a Lively World

籍に入ったものが2名と少なく、これからも健康で充実した生活を送りたい。

最後に、開催にあたりご協力をいただいた世話人の皆様にお礼申し上げます。

昭和 50 年卒 澤田 勝一

新型コロナ禍明けたら想定内の同窓会ラッシュ。昨年末に不整脈が見つかり心臓カテーテル手術を受けた半病人ですが、今年は中学と高校それぞれの学年同窓会代表幹事を、薬用養命酒の力借りながらこなしています。1975年学部卒業の同期の皆様、来年はいよいよ卒業50年の節目の年です。「50年会」盛大に開催しましょう。追って連絡させていただきます。ご協力の程よろしくをお願いします。

昭和 55 年卒 楠田 行利

1980年卒業の楠田行利です。昨年4月に永年勤めた日本国土開発を退職し、現在地元でのんびりと過ごしております。昨年の特筆すべき内容としてコロナで延び延びとなっていた同窓生40周年の記念旅行を10月に行いました。昨年退任した同期の大島教授の手厚い段取りにて諏訪湖に13名が参加し、楽しい一時を過ごすことができました。

昭和 56 年卒 太田 誠三

卒業して43年経ち、完全リタイアの人も増えてきました。毎年末に同窓会（忘年会）を開催し、ワイワイ楽しくやっています。でも、何人かは連絡が着きません。この会報を見ている方で、忘年会の連絡が来ないって人はsket-ota@yahoo.ne.jpまでご一報ください。同窓会の案内送ります。これからの人生の過ごし方役に立つ情報が得られますよ。

昭和 60 年卒 真鍋 英規

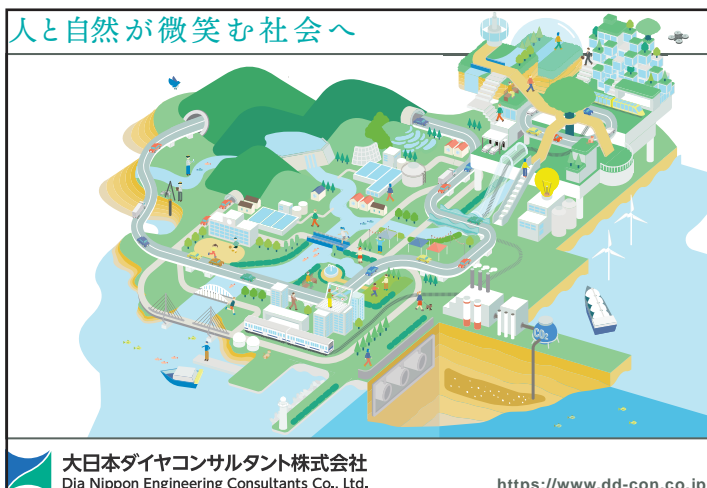
2013年、脱サラ一念発起し、社会インフラの維持管理に特化した建設コンサルタント「株式会社 CORE 技術研究所」を立ち上げました。あっという間に11年が経過しましたが、当初僅か数名のスタートから、現在100名程度まで成長することができました。皆様のご協力・ご支援のおかげと感謝しています。なお、大阪市大の卒業生は私を含め6名在籍しています。次の10年で売上40億円超目指します！

昭和 62 年卒 橋田 雅弘

ご無沙汰しております。62年卒の橋田です。私、このたび3月末をもちまして、大阪市役所を退職いたしました。

平成元年4月に入庁以来、35年。建設局・計画調整

人と自然が微笑む社会へ



挑め、進め、超えろ。

80 鉄建建設

常務執行役員大阪支店長 山田秀雄
大阪支店 〒530-0003 大阪市北区堂島1-5-17
堂島グランドビル9階
TEL 06-6343-5581

局などで街路事業や“うめきた”などの都市開発等、様々な大阪市のまちづくりに携わらせていただき、充実した役所生活を送ることができました。皆様ありがとうございました。

昭和 63 年卒 小林 千恵

1988年（昭和63年）卒業の小林千恵です。

卒業後、下水道コンサルタント、環境コンサルタント等を経て、現在は環境団体の代表として活動しています。この団体では生活の中のごみ減量から地球温暖化対策を考えることをテーマに、リサイクル教室などを行ない子どもたちへの環境教育をしています。

また、空き時間には学童で元気な小学生と過ごし、体力勝負の仕事をしています。

平成 5 年卒（平成 7 年院卒） 高野 賢治

私には自慢出来るものがある。妻だ。妻を一言でいうと宮城谷昌光著「楽毅」に登場する「田氏の妻」のような人だ。子宝にも恵まれ、長男はこの春、希望の大学、学部に進学。次男も高校に進学し陸上競技と勉学に励んでいる。

仕事はというと、自分が思い描いたものとは大きく異なり、亡き母には、大学院まで行かせて貰って申し訳ないといしか言いようがない。

ただいま！お帰りなさい！嗚呼、今日も又、妻の笑顔に癒されるのである。

平成 6 年卒（平成 8 年院卒） 河内 伸

卒業後、大阪市に就職し、昨年度からは大阪府に派遣されています。大阪府での配属部署は東部流域下水道事務所で、下水道の仕事に従事しています。大阪府への派遣は、15年ぶり2度目です。大阪府のみなさまにはとてもお世話になっております。

平成 7 年卒 鍋島 寛之

大阪市高速電気軌道（株）

1995年4月に卒業以来、早いもので30年を迎えようとしています。私自身も大阪市に奉職したものの今は一民間鉄道会社の社員となるなど環境も大きく変わりました。近年は学会や委員会で久しぶりに同期の方とお会いすることが楽しみの一つになっています。最後の同窓会からも約10年近く経ち、久しぶりに皆さんにお会いしたいなあと、学年代表と言いながら何もお役に立てていないことを反省しつつ考えるこの頃です。

平成 16 年卒 中林 将之

早いもので、卒業してから20年が経ちました。仕事は3度の転職をし、今は(株)CORE 技術研究所でコンクリート道路橋の維持管理に携わっています。5年ほど点検や現地調査を行い、その後、設計を行い4年



Create Value,
Build the
Future

私たちの今が、社会の未来を創る

東亜建設工業
TOA CORPORATION

〒163-1031 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー www.toa-const.co.jp



海風とかなえる
カーボンニュートラル

夢から感動へーハートテクノロジー

東洋建設

ほどになります。

プライベートでは、彼女いない歴が32年で止まり、無事結婚できました。今では2人の娘にも恵まれています。数年前から家庭菜園に興味を持ち、土木のみならず、畑の土や果樹に向き合うことが増えました。

平成 23 年卒 (平成 25 年前期博士課程修了) 鈴木 達也

私は(株)ニュージェックにて、港湾施設の設計に関する仕事に従事しています。最近資格を取得し、仕事の幅が広がりました。また2歳の息子との時間を確保するため、ワーク・ライフ・バランスにも取り組んでいます。2023年6月には社内にいる卒業生(土木・建築および文系含め)23名で飲み会を開催し、親交を深めました。

平成 27 年卒 (平成 29 年修了) 黒木 唯真

卒業後から変わらずですが、(株)長大で新設橋梁の計画・設計を行っています。近畿では注目事業の大阪湾岸道路西伸部や名神湾岸連絡線に携わり、社名の通り長大橋にも多少関わってきました。最近は道路橋示方書などの設計基準の基となるような検討業務も行い、日々邁進しております。

コロナ禍などもあり、同級生や研究室の方々とは会う機会が減っておりましたが、またご一緒できればと思います。

平成 29 年卒 廣澤 直人

(株)IHIインフラシステムズ

平成29年に卒業、平成31年に修了して、株式会社IHIインフラシステムズに入社して6年目になります。これまで、鋼橋の新設・保全工事に設計担当として従事してきました。昨年、短期間ながら育児休業を取得する機会もあり、仕事に対する価値観が変わりつつありますが、者として今後も成長していきたいと思っております。

令和 3 年卒 澤田 和樹

卒業してから、あっという間に3年が過ぎました。現在、社会人生活4年目で初めて所属の異動を経験し、心機一転、新天地にて新生活を送っているところです。以前は港湾、現在は河川砂防行政に従事しており、日々知らないことに出会うことばかりですが、探究心を忘れず、やりがいを感じながら一歩ずつ成長していきたいと思っております。以上、簡単ではございますが、私の近況につきご報告申し上げます。



NEJEC
自然と人を技術で結ぶ
Harmonizing People with Nature by Technology

交通・都市部門
 ■都市施設・景観デザイン
 ■上下水道
 ■道路・橋梁
 ■港湾・海岸
 ■PPP PFI

基礎技術部門
 ■地盤・地質
 ■環境
 ■電気通信
 ■耐震診断・評価

建築部門 (一級建築士事務所)
 国際部門

河川部門
 ■ダム・河川・砂防

株式会社 **ニュージェック**
我々に関西最大の総合建設コンサルタントです

大阪本社 大阪市北区本庄東2-3-20 TEL.06-6374-4901
 東京本社 東京都江東区亀戸1-5-7 TEL.03-5628-7201
<https://www.newjec.co.jp>



焼却プラントを美しく。
廃棄物をエネルギーに。
Technology & Design Company Plantec

高北清掃センター(茨城県)

株式会社 **プランテック**

〒550-0003 大阪市西区京町堀1丁目6番17号 TEL.06-6448-2200(代表)
<https://www.plantec-kk.co.jp/recruit/>

事務局だより

会員数 (令和6年4月1日現在)

正会員 2,521名、学生会員 310名、特別会員 148名、
総数 2,979名

会費の納入のお願い!**●会費**

年会費は令和4年から 3,000円です。

- ・都市会会計の主な収入は会費です。未納額がある方は同封の納付書記載額の一部でも結構ですので納付方よろしくお願ひします。
- ・学生会員(大学院在学を含む)は会費納入が免除されております。

●旧環境都市会同窓会に在籍された会員の皆様へ

平成26年度に旧土木会、旧環境都市同窓会、旧都市会が合併して「都市会」が発足して5年目を迎えます。旧環境都市同窓会会員の皆様には終身会費として10,000円をお支払い頂いており、都市会発足後の5年間は会費の納入が免除されておりました。しかし、都市会発足時の規約制定に従い、令和元年度から年会費を請求させていただいております。御了解お願ひ致します。

●終身会費

一括して会費を納入していただくことも可能です。会員在籍年数に応じて以下のように定められております。(会員在籍年数(会費滞納のないことが前提です))

11年～15年以内の会員	105,000円
16年～20年以内	90,000円
20年～25年以内	75,000円
26年～30年以内	60,000円
31年～35年以内	45,000円
36年～40年以内	30,000円
41年以上	22,500円

在籍年数が50年を経過した会費滞納のない会員は、以後の会費納入が免除されます。

会員交流の促進**●職場班の結成を促進にします!**

従来、職場班は全員参加がルールとなっておりましたが、令和元年度よりその縛りをなくします。5名以上の会員で結成することができ、会費の10%を職場班活動費として補助します。現在、大阪市、近鉄、神戸市、大阪メトロ班の4班です。

●職場代表幹事制度

H30年度より各職場と都市会の連絡の窓口となる職場幹事を選任して頂き、会員情報収集等ご協力をお願いする「職場代表幹事」の選任を進めています。既に下記25社の方にご協力を頂いており、ご検討をお願いします。

(大阪ガス、大阪市、大阪市高速電気鉄道、大林組、奥村組、鹿島建設、関西電力、近鉄、栗本鐵工所、建設技術研究所、鴻池組、神戸市、五洋建設、大成建設、東亜建設工業、東洋建設、西日本高速道路、日水コン、ニュージェック、阪神高速道路、前田建設工業、三菱重工、和歌山県、IHIインフラシステムズ、JFEエンジニアリング)

●支部の結成

支部活動費として、当該地区会員の前年度納入額の20%を補助、現在は東京支部があります。

●都市会女性の会

令和2年度に都市会女性の会が発足しました。
メール ocuurbanalumnijosei@gmail.com

会報への広告掲載の御礼

会員の所属機関の広告を、会報に掲載させていただいております。広告収入は会報の発行に大変大きな支援となっております。本紙面をお借りしてお礼申し上げます。

●ホームページへの会員活動情報掲載

会員の活動が雑誌や新聞等に掲載された場合は、事務局に連絡をお願いします。活動の様子をHPにアップしています。昭和36年卒の三田村武様が「NHK 新プロジェクト X 世界最長 悲願のつり橋に挑む～明石海峡大橋40年の闘い」(5/11放送)に出演されました。アーカイブでご覧下さい。

**企画・ご意見の募集**

会員相互の研鑽と親睦を図るための企画やご意見を下さい。会員交流会や学生支援などの具体的な提案があればどしどし事務局へご連絡くださるようお願い申し上げます。

R4/5-R5/5 逝去された会員

お名前	卒業年	御逝去年月
・山崎 光士 様 (S60 卒)		2023/8
・先曾 昭和 様 (S26 卒)		2023/9
・佐土谷 亨 様 (S60 卒)		2023/10
・園田恵一郎 様 (S36,S41 修、旧教員)		2024/5

・今年から「業界便り」「学年代表委員からの近況報告」をスタートしました。

事務局の連絡先

メールアドレス ocuurbanalumni@gmail.com
 電話・ファックス 06-6696-2965
 ホームページ <http://OCU-toshi.com>

編集後記

機械、電気、電子系学科が中百舌鳥キャンパスに移転、都市工学科、建築学科、化学工学科は令和8年4月に移転を予定しています。4年後には都市会も移転となります。

・「特別企画」「連載企画」の次号は昭和39年(卒後60年),昭和49年(卒後50年),昭和59年(卒後40年),平成6年(卒後30年),平成16年(卒後20年),平成26(卒後10年)卒業の方々です。学年代表委員の方々、同期会の開催や昔話など寄稿下さい。



都市会 HP



都市会女性の会 HP



都市学科 HP



大阪市立大学工学部同窓会 HP

令和6年度総会・懇親会開催のご案内

- ・総 会 令和6年7月27日(土)
15時から17時
- ・場 所 杉本キャンパス 田中記念会館
レストラン「めたせこいあ」06-6605-3019
- ・参加費 3,000円(学生無料)
- ・キャンパスツアー 13時半 田中記念会館前集合(参加要連絡)

令和6年度総会議案に対する電子・郵便投票のお知らせ

投票期間 令和6年7月8日(月)~7月21日(日)

- ①総会に参加の方は総会で賛否
- ②同封の投票はがきで投票
- ③電子投票で投票
- ④都市会宛てメールで投票



議案書QRコード



電子投票QRコード